

第2回新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会

日時 令和4年9月22日(木) 午前9時30分

場所 盛岡市勤労福祉会館 401・402 会議室

次 第

1 開会

2 委員紹介

3 意見交換

(1) 第1回有識者等懇話会の質問等への回答について

資料1

(2) 新市庁舎構想検討会議報告書について

- ・新市庁舎の整備エリアについて
- ・第1回有識者等懇話会における主な意見

資料2

資料3

ア 新市庁舎整備の必要性

イ 新市庁舎に必要な機能

ウ 新市庁舎の規模

エ 新市庁舎の整備手法

オ 新市庁舎の整備エリア

カ 事業手法と資金計画

4 その他

5 閉会

新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会委員名簿

【委員】

(敬称略)


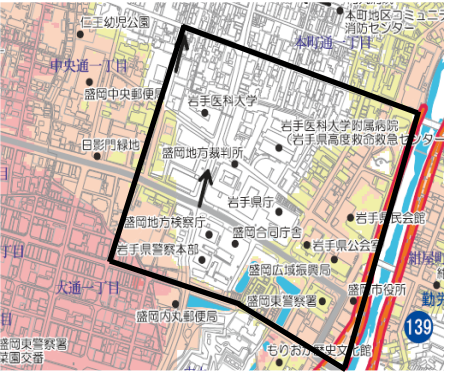
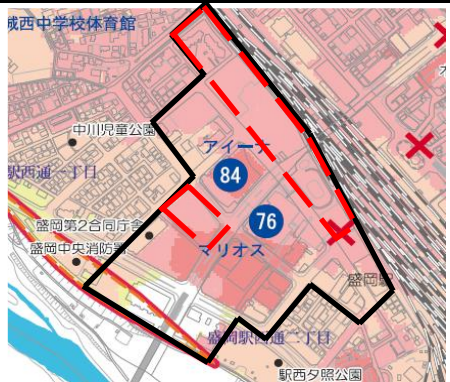
	委 員	役 職 等
1	倉原 宗孝 (座長)	岩手県立大学総合政策学部教授
2	菊池 透	盛岡商工会議所専務理事
3	小枝指 好夫	盛岡市町内会連合会会長
4	今野 紀子	盛岡市身体障害者協議会副理事長
5	高橋 悟	岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室デジタル推進担当
6	三浦 葉子	たまやま女性団体協議会副会長
7	中島 清隆 (副座長)	岩手大学人文社会科学部准教授
8	小野田 摂子	公募委員
9	佐々木 みどり	公募委員

【事務局】

	所 属	職 名	氏 名
1	市長公室	企画調整課長	中嶋 孝樹
2	総務部	総務部長	佐藤 直樹
3	〃	総務部次長	立花 恵史
4	〃	総務部次長兼情報企画課長	阿部 俊之
5	〃	管財課長	鈴木 丈司
6	財政部	財政課長	小林 敬
7	都市整備部	都市整備部長	小笠原 裕光
8	〃	都市計画課長	齋藤 剛
9	〃	市街地整備課長	大坪 康宏

第 1 回有識者等懇話会の質問等への回答

項番	項目	回答
1	山形県庁舎の郊外移転	山形県庁舎は、昭和50年に市街地（現市役所周辺の官庁街）から郊外に移転しましたが、「公共公益施設の移転による中心部の吸引力の低下が進んだ。」（山形市中心市街地活性化基本計画より）との評価があります。
2	公用車の稼働率	令和2年度の本庁舎及び周辺分庁舎の公用車の平均稼働率は59.8%（トラック等の特殊車両、庁舎以外で使用する車両及び共用車両を除く。）です。 なお、今後、各課で管理する車両を一元管理することで全体の数を削減できるか、調整することとしています。
3	給排水管の老朽化への対応	本庁舎本館は、平成24年度から平成26年度までの3か年で配管改修工事を実施しています。 ○事業費総額 311,169,600円 平成23年度 工事設計業務委託 4,672,500円 平成24年度 配管改修工事 115,819,200円 平成25年度 配管改修工事 93,418,500円 平成26年度 配管改修工事 97,259,400円 ○主な工事内容 上水・井水・汚水の各配管の改修、トイレ改修（多目的トイレ設置）、暖房配管の改修など

	内丸エリア	盛岡駅西エリア	盛南エリア
<p><凡例> 浸水深の目安</p> 			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○藩政時代から政治と経済の中心 ○医療、文教、金融、商業等が集積、盛岡の歴史や文化の情報発信の核 ○東大通商店街は昭和の面影が残り、ファンが多い。 ○県庁所在地として政治や社会経済等の都市活動の中枢を担う機能が集積 	<ul style="list-style-type: none"> ○近代的で洗練された都市イメージ ○ターミナル駅の交通拠点性を生かした鉄道・都市間バス等の都市交通の結節点 ○マンション、ホテル、専門学校等が進出 ○国の合同庁舎、盛岡中央消防署等公的機関の建設も進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東北自動車道、国道46号盛岡西バイパス等による広域交通拠点性を生かし、計画的に整備された地区 ○中心市街地と盛岡駅西口地区、盛岡南地区を結ぶ道路、バスルート等が整備されている。 ○一般住宅、アパート、マンションが増加し、人口も増加している。
利点	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通網によるアクセス性に優れている。（豊富なバス路線） ○他の官公庁や商業施設が充実し、利用者に利便性 ○周辺商業施設等にとって、市庁舎が他のエリアに移転するより、経済的影響は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通網によるアクセス性に優れている。（盛岡駅に隣接） ○1万平方メートル以上の市有地がある。 ○仮設庁舎を設置する必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車によるアクセス性に優れている。 ○事業所の営業活動や飲食等の需要を満たす地区であり、当該利用者にとってメリットが大きい。 ○エリア内の大部分は洪水浸水想定区域外 ○仮庁舎を設置する必要がない。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○洪水浸水想定区域が広い。（岩手県庁、盛岡地方裁判所、岩手医科大学等は洪水浸水想定区域外） ○現地建替えの場合、仮庁舎の整備が必要 ○現市庁舎位置以外に活用可能な市有土地がないため、用地を取得する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全域が洪水浸水想定区域内であり、防災機能拠点の役割を果たすための対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○活用可能な市有土地がないため、用地を取得する必要がある。 ○他エリアに比べ、公共交通機関によるアクセス性が劣る。 ○官公庁の主要施設がなく、当該機関との連携において利便性が劣る。

第1回有識者等懇話会における主な意見

【新市庁舎整備の必要性】

- ・ 福祉の分野で、合理的配慮の義務付けがある。少子高齢化や障がい者の視点から、今の庁舎は使いづらく、バリアフリーではない。補修や改修の段階ではないと感じるので、新市庁舎の検討を進めていただきたい。
- ・ 洪水浸水想定区域にもかかわらず、地下に電源系統がある。補強や機能改善が必要だが、手を付けるには老朽化で困難な状況である。行政のあり方やオープンスペースの確保、庁舎の使い方の見直しなどを含めて、整備の検討を進めるべきである。

【新市庁舎に必要な機能】

◆ 防災拠点となる安全な庁舎

- ・ 防災上の持続可能性の点から、各大学や他の市町村との連絡を密にとり合うことができる防災機能が必要である。将来を見据えて、過去の災害や原因分析などを共有できることが大切である。
- ・ 洪水や浸水のニュースをよく聞くが、誰もが安全安心して利用できる安全な庁舎を目指してほしい。
- ・ いざというときに市役所に行けば助けてもらえるという機能が、これからの時代、必要ではないか。サードプレイスといった家庭や職場での役割から離れた第3の場、居心地の良い場所を求めている人にとって、市役所の建物やその周辺の環境がそうした場所になるとよい。

◆ 新たな価値を生み出す庁舎

- ・ 今までのような窓口を中心とした市役所業務だけではなく、公民連携や産学官連携といった開かれた場所という機能も必要である。これからの市のにぎわいをリードする機能についても検討を進めてほしい。
- ・ 市商工会議所は、市と別組織ではあるが、盛岡市とコラボし、同じ目的で公民連携をしている。新市庁舎のワンフロアを貸してもらえれば、事業者にとってワンストップにもなる。様々な公民連携の形も含めて考えてほしい。
- ・ 市役所の役目は、住みよいまちづくりにつながっていくものだと思う。地域の未来づく

りにつながっていくような庁舎であってほしい。

◆ 次世代の執務環境

- ・ 今後、デジタルに対応した世代が上がっていけば、窓口業務が変わっていく。海外の事例では、役所が窓口ではなく、交流の場になったりシンボリックな機能になっている。盛岡市では令和7年度までのDX推進計画があるが、その成果をいかに高いレベルに上げて新市庁舎に引き継ぐことが重要だと思う。

◆ 環境に優しい庁舎

- ・ ゼロエネルギーの観点で、庁舎全体のエネルギー収支をゼロにするゼロエネルギーマネジメント的なビル監視システムといった機能の検討も必要である。
- ・ 日本でもゼロエネルギービル（ZEB）が見られるようになった。ゼロエネルギーやプラスエネルギーの建物ができればインパクトがあるが、デザインと省エネのバランスや北東北の気候風土に合った建物であることが大切である。
- ・ カーボンニュートラルの目標を達成するためにも、建物の持続可能性は重要な視点である。市役所がその機能と役割を果たせるのであれば、高層でなくてもよく、2～3階建て、県内の木材を使った木造の市役所とすることも選択肢となるのではないか。
- ・ 内装材として、窓の下1メートル程度を県産材の杉板で覆うと、交換もしやすいし、通気性があり、人にやさしく働きやすい。

◆ 「盛岡のシンボル」となる庁舎

- ・ 行政のためだけの施設ではなく、市民が集まって交流できる機能を持たせた、市民にとってシンボルとなる場所になってほしい。

【新市庁舎の規模】

◆ 集約する部署

- ・ 基幹的な部署は、集約しないと効率が悪い。都南分庁舎に都市整備部や教育委員会が入っているが、新市庁舎に集約しないと決めるのではなく、検討してほしい。

◆ 庁舎の分散

- ・ オンラインやワンストップの機能があれば、庁舎が分散していても非効率という考え方が変わってくる。
- ・ 技術の進歩が早い。デジタルが当たり前となった時の庁舎機能は読めないところがあるが、柔軟な庁舎の環境が機能面で必要ではないか。建物の集約の考え方、賃貸、防災機能、

窓口や交流の場など、可能性を組み入れて、変化への柔軟な対応や幅を持たせる必要があると思う。

【新市庁舎の整備手法】

◆ 新市庁舎の整備方法（敷地内建替、移転新築等）

- ・ 整備手法の比較について、財政負担の軽減のみではなく、新たな価値を生み出すのには、どういったことが適切で、どういった場所が適当なのかという観点を強めて出してほしい。

◆ 新市庁舎の建築工法

- ・ 森林県であり、木材の庁舎について、CLT（※）の活用なども検討してほしい。コスト面も考慮しなければならないが、新しい価値として、大きな効果があると思う。

（※）CLT（Cross Laminated Timber/直交集成材 木材を特殊な技術で積層させた、新しい建材。

高層建築にも用いられており、東京オリパラの選手村にも採用（日本CLT技術研究所HPより）

- ・ いかにかに市の事業者が市庁舎建設などに関われるかが、重要なポイントと思う。市内経済の活性化や、市内または県内で経済循環という視点が必要。
- ・ 地場材を使い、あるフロアや部分については市民の手作り庁舎ということも、面白いのではないか。作る過程そのものが、新市庁舎のあり方を示すメッセージになる。
- ・ 建築や設計業者は、土地に精通した仙台以北の業者が望ましい。後々のメンテナンスなども考え、盛岡に適した風土、建築、設計、環境が必要。
- ・ 木造は、鉄筋コンクリートよりも耐用年数が伸びるのかどうかということも大事な観点である。

【新市庁舎の整備エリア】

- ・ 昨年の内丸ビジョンがあり、今年は、内丸プランを策定中である。県や民間事業者も入っているが、市役所、医大も大事な要素である。

【事業手法と資金計画】

◆ 事業手法（合築、PFIの活用等）

（意見なし）

◆ 資金計画

- ・ 市民は市のお金の使い方に厳しい目があり、財政的な持続可能性について、高い関心を

持っている。丁寧な説明が必要である。

【その他】

- ・ 職員が働きやすい環境は大事であり、アクティビティ・ベースド・ワーキング（※）という形がある。生産性やデメリットなど課題はあるが、検討して欲しい。

（※）ABW（Activity Based Working） 仕事内容に合わせて時間や場所を自由に選択できる働き方

- ・ 盛岡らしい建物、盛岡らしい作り方、使い方、そのようなことを大事にしたい。
- ・ 新市庁舎の完成を待たず、現市庁舎においてもできることから行うべき。